

## 議員定数及び議員報酬調査特別委員会 摘 録

1. 開催日 令和4年10月24日(月) 第2委員会室
2. 出席委員 政野太委員長 桂藤和夫副委員長 堀井秀昭 福山権二 藤木百合子 國利知史  
松本みのり 近藤久子議長
3. 欠席委員 なし
4. 事務局職員 花田讓二議会事務局長 横山和昭議会事務局議事調査係長 丸飯龍太議会事務局主任主事
5. 説明員 なし
6. 委員外議員 横路政之副議長
7. 傍聴者 1名
8. 会議に付した事件
  - 1 付託事項の審査
  - 2 今後の審査について
  - 3 その他

午前9時55分 開 議

○政野太委員長 第5回議員定数及び議員報酬調査特別委員会を開会したいと思います。開会に当たりまして、傍聴、録画、撮影を許可しております。

### 1 付託事項の審査

○政野太委員長 まずは早速、協議事項の確認をさせていただきたいと思います。1点目、付託事項の審査ということで、議員定数についてまだ継続をしているところなのですが、どのタイミングで委員の皆さんの意見を集約していくかということについて検討しているところです。現在のところでは、これまで資料を提供させていただいた事前の情報ということで同じ情報を共有して、今後、議論に入っていきたいと思っているのですが、その前に、やはり当初予定しておりましたとおり、まずは議員の活動に関するアンケートということで、20名の議員の皆さんにアンケートを実施してみたいと考えて、きょう事務局から案をここに用意してもらっております。目を通していただければと思うのですが、1点ずつ確認していきたいと思います。中身についてはまた後ほど御意見をください。まず問1、議員になるきっかけは次のうちどれですかという設問。問2、直近の選挙活動の感想は次のうちどれですか。問3、2で①～②を選ばれた方に、最も大変だったことを教えてください。問4、あなたが議員活動を行う中で、重要視することは何ですか。問5、あなた御自身の議員活動が市民に周知、理解がされていると思いますか。問6、あなた御自身の議員活動を市民に知ってもらうために、どのような活動を行っていますか。問7、あなたの意見や市民からの声が、市政に反映されていると思いますか。問8、あなた御自身の出身地以外のことに関心がありますか。問9、あなた御自身の出身地以外の地域に積極的に赴き、議員活動を行うことがありますか。問10、現在、

旧比和町及び旧総領町在住の議員が選出されていませんが、この状況についてあなたの考えを教えてください。問 11、旧市町単位での選挙区制は必要だと思いますか。問 12、議会の改革は必要だと思いますか。問 13、問 12 で①を選ばれた方にお尋ねします。議会が改革に取り組むべき課題は何だと思いますか。問 14、現在の議員定数は 20 人ですが、この定数についてどう思いますか。問 15、問 14 で①～②を選ばれた方にお尋ねします。具体的な議員定数は何人だと思いますか。問 16、毎月の議員報酬額 32 万 5,000 円についてどう思いますか。問 17、問 16 で②～③を選ばれた方にお尋ねします。あなたが思う議員報酬の支給額とその理由をお書きください。問 18、現在の委員会構成についてどう思いますか。問 19、問 18 で②～④を選ばれた方にお尋ねします。委員会構成について、具体的な提案などがありましたら御記入ください。問 20、最後に、議員活動、定数、報酬等について御意見があれば御記入ください。質問は以上ですということで、20 問の設問を今たき台として用意させていただきました。これについて、もっとこういう設問にしたほうがいいのかとか、あるいは回答方法、こういう回答もあってもいいのではないかという意見をきょういただければと思うのですが、いかがでしょうか。議長。

○近藤久子議長　　これは何を参考にして考えられた案なのですか。それとも独自に考えたのですか。

○政野太委員長　　横山係長。

○横山和昭議会事務局議事調査係長　　他市で実施されているところもあったので、そういったものでありますとか、事務局と委員長で相談いたしまして、こういったことを聞いたらどうだろうかという形で設問を考えさせていただいております。

○政野太委員長　　一応、私の思いの中では、現在、無記名式で調査をしてはどうかと思っております。ただし、情報についてはやはり公開をしていかなければならないということがあると思いますので、このアンケート内容については公開をしていければと思いますが、その辺についても皆さんの意見をお聞かせいただければと思います。福山委員。

○福山権二委員　　こういうアンケートを取ろうというのは、これまで議論してきたか。

○政野太委員長　　最初に私から話をさせていただいた中に、市民のアンケートももちろんですが、現在 20 名の議員のアンケートも実施したいということでお伝えをしていたと思います。局長。

○花田譲二議会事務局長　　正確に言いますと、前回 8 月 20 日のこの委員会の中で、市民アンケートをどのようにしていくかという議論をいただいたところでございますが、その中で、やはり議員活動も踏まえた議員に対するアンケートは必要であろうということで議論いただき、そのように進めるべきではないかということも決めたというか、皆さんの中で話をされたと記録として残しております。

○政野太委員長　　私も提案する側として皆さんの意見をいただければと思うのですが、たしか三重県のアンケート内容の中には、議員の 1 日はどういう時間をどのように費やしているかというような内容まで組み込んだものがあったと思います。そういったものも入れてみてはどうかとは思いますが、いかがでしょうか。福山委員。

○福山権二委員　　その項目を設ける動機は何ですか。

○政野太委員長　　今回、庄原市議会の議員定数を審議する中で、市民の感情はもちろん何となく聞こえてくる中で、議員が一体どのような活動をしているのかということも大まかには聞いてはいるのですが、最終的に答えを出していくに当たって、現在の議員は、どのような活動をしているのかということをもう少し市民の方にも見ていただくという思いです。横路副議長。

- 横路政之副議長 1日の県会議員の動きですよね。市レベルで行くとそこまでは必要ないのではないかと思います。
- 政野太委員長 議長。
- 近藤久子議長 報酬のところでは講演をお聞きになられた方、広島に行かれた方、あのときに原価方式というのを聞かれた方がいらっしゃるいませんか。それについての御感想なり思いがあればお聞かせいただければ。
- 政野太委員長 私も講習に参加させていただいたのですけれども、直接的に原価方式については詳しい説明はなかったように思います。ただ、こういう事例があって、やはり議員が1日どのような活動をしているかという話はありませんけれども、直接的にはなかったと思います。福山委員。
- 福山権二委員 議員活動に関するアンケートなので、整理するのに、この特別委員会がこの定数と報酬を審議するに当たって、各議員にこういう項目を、今、委員長のお話によると、大体、議員としてどういう活動をしているのか、時間の経過も含めて自主申告のチェックを出せということもするということですよ。それが当然そうなのだとすることを、何のためにするのかと言われたときに、統一見解を持っておかないと、委員長が言ったからということにはならないので、委員会としてこれをするに当たって、かなり微妙な問題になるので、これも公表するところまでいくと、議員によっては、なぜこんなことを決めたのかとなるのではないかと思いますので、そこはなぜとるのかということを慎重に。私は基本的にはとっていいと思うのです。ただ、意思統一だけはしておかないと、みんながばらばらではいけないので。必要だからとるといっただけでは難しいと思う。
- 政野太委員長 先ほど横路副議長からは、そこまで必要はないのではないかと御意見もあつたり、福山議員からは、とるにしてもここで共通の意識を持っておかないといけないという御意見なのですが、先ほどいいましたけれど、最終的に報酬の場合は、報酬審ということにはなると思うのですけれども、定数は、この定数が妥当であるという結論を市民の方に示さなければならぬ。その示すための根拠として必要であるものは、こういうアンケート調査も1つではないかという思いはしているのですけれども、あえて今回はそこまでのことはこのアンケートには書いておりませんが、今後必要かどうかということだけ議論いただければと思います。報酬審についても、やはりなぜ報酬が妥当なのか、あるいは増額を希望するのか、減額を希望するのか。いずれにしても、根拠理由が必要かと思しますので、いかがでしょうか。國利委員。
- 國利知史議員 1日の動きを別に公表はされてもいいと思うのですけれども、例えば、1週間のうち、土日を休みとしても、平日の月から金まで毎日同じ動きをしているわけではないので、日によって、曜日によって動きは全く変わるし、呼ばれたらいかないといけないということで、臨機応変に皆さん対応されているところはすごく多いのではないかと議員2年目になって思うのですけれども、これという活動は固定されていないではないですか。会社員なら何時に行き、何時に終わる。そこまでこういう業務をするということが決まっているので書きやすいと思うのですけれども、なかなか議員の動きは書きにくいのではないかと。どの日を選んでやるかとか、そういうのもなかなか。今、横路副議長が言われたように、必要がないとか、表示するのが難しいのではないかとこの思いはあります。
- 政野太委員長 松本委員、いかがでしょう。
- 松本みのり委員 國利委員と同じで、毎日何時から何時まではこれというのでやっているわけではないということで、議員活動の中でこういったことをしているのかということを出していくほうがわか

りやすくいいのかなど。こんな相談を受けてこんなことをしていますとか、そういったものをまとめるのは1つかもしいないですけど、時間軸で、1日のうち何時にこれというのは少しお示しするのが難しいのではないかと思います。

○政野太委員長 福山委員。

○福山権二議員 そういうこのアンケートの項目の一つ一つの是非については、次の議論になるので、議員活動に関する、この調査特別委員会として、個別議員に統一した項目でアンケートをとるということは、この審議にどう有効なのかということをもとめておいて、とろうということ、例えば、ここへ私がいるのも、1つは、形式的にはただ市民の会の代表としてきています。そうすると、何か問題があったら会派の中で話をし、また持ち寄るといっても手だろうし、だから、議員活動に関するアンケートをとるということについての本来の目的、有効性、その限度というものをこの委員会でまず話をし、簡単でいいからをまとめたほうが行きやすいのではないかと。

○政野太委員長 まずはアンケートをとるということについてのいうことですよ。例えば、今議論していただいたのは、そういった内容をここに付け加えるかどうかということ、今後、ほかにもあると思うのですよ。今の1つの例として、ああいう形でここに盛り込んでいくか、あるいはこの中から削除するかというような議論を今後していきたいと思うのですけれども、それを前提として、まず、議員活動に関するアンケートをきょう提案させていただくのですけれども、これについて、まず実施をさせていただくかどうかということについて皆さんの御意見をいただければと思います。私の個人的な思いとすれば、会派に内容についてはお持ち帰りいただいてもいいのですけれども、あくまでこのアンケートは議員個人の意見として扱わせていただくということで進めたいと思いますが、その辺についても御意見をいただければと思います。だから、まずはアンケートを実施するかどうか。藤木委員。

○藤木百合子議員 このアンケートは、結局は議員定数とか議員報酬を考える上で、議員としての活動の各議員の捉え方を知るという意味でのアンケートということですよ。先ほどの原価方式というのが私はよくわからないので教えてもらいたい。

○政野太委員長 原価方式は、これはいつの資料ですか。議長。

○近藤久子議長 全国町村議会議長会の委託研究事業でやっている。それを江藤俊昭先生がまとめていらっしゃる。以前にもここを読んでくださいとご案内させていただいたのですけれども、全国町村議会議長会が委託して研究してくださいというところの最終報告書がまとまっておりますので、大変わかりやすい。

○政野太委員長 局長。

○花田譲二議会事務局長 少しこれまでの議論の経緯も踏まえまして、このアンケートの必要性というか、どういう形で整理されたかという話をさせていただきたいと思うのですが、まず市民へどういう形で参画いただき、意見を聴取するかという段階へいったときに、まずは議員定数、報酬だけの議論でいくと、必ず減らすべきだとか下げるべきだとか、議員は年に4回しか活動していないのだからという議論が、これはいろんな場面でいうと、やはり減らすという議論が多くなってくると。それはやはり議員の活動そのものが市民の方に周知されていないという部分もあるのではないかと。もちろん個々の議員はそれぞれの活動をされておられますので、その周辺の方は御存じかもしれませんが、議員全体として、議会活動としてどうなのか。議員個人としての活動はどうなのか。そういったこと

るもなかなか市民に伝えきれていないのではないかと。これは、実は廿日市市議会が、今回、市民アンケートをしているのですけれど、そのときに少し廿日市市議会事務局に確認しましたところ、廿日市市議会もやはり当選された議員は、議員を減らしますという公約で出ていらっしゃる方が上位当選されていると。ただ、減らすとかふやすとかいう議論だけでいいのかということがありまして、そういった意味合いでいうと、議員活動がどうなのか。皆さんにきちんと知られているのか。どういう情報を流しているのか。皆さんが関心あるのかどうか。そういう形の議論も踏まえてすべきではないかと。これはもともと議長が諮問されておられたときに、増減の話をするのではなくて、やはり議員がどうあるべきかということ踏まえての議論という形、減らすという議論が先に立つのではなくてということが前提でありましたので、そういった意味合いで市民アンケートをとっていきべきだろうということで話を進めておられました。その中で、やはり議員そのものが、自分たちの活動がきちんと市民に対し周知されていると思うかどうかとか、自分がどういう活動をしているのか。その上で、この議会という部分のところと言うと、定数を受けてどうなのだというみずからの考え方も整理すべきではないかという議論の中で、この議会のアンケートをしたらどうかというのが、前回、委員長も含めておっしゃった部分のところ、自分たちの意識の確認もしなければならぬということが議会の議員の皆さんのアンケートをしようという1つのきっかけであったという整理をしているところでございます。今後、その内容を踏まえて、市民アンケートの内容もそこで精査することは可能ではないかと。だから、どういう形で周知しています。どういう活動をしていますということが、今度は市民にその活動を皆さん御存じですかとか、認識をされていますかみたいな形のを聞くことによって、議員の皆さんの活動と市民の皆さんのずれが少しわかっていく。その上で、今後、議会はどうあるべきか、定数はどうあるかという議論につながっていくのではないかとというのは、申し訳ないですけど、私の個人的意見でございます。そういう形になっていく参考になろうかと考えております。

○政野太議員　　今、局長から説明をいただいたとおりののですけれども、やはり議員定数及び報酬を考えると、一面的に市民の意見だけを参考にしていくこともできない。実際に活動していらっしゃる議員の皆さんの思い、考えというものも参考にさせていただかなければならないという思いで庄原市議会の議員に対してのアンケートを実施してはどうかということで考えております。福山委員。

○福山権二委員　　みんなで議論をしたほうが良いと思うのですけれども、議員定数と報酬についても考える委員会ですから、調査目的は少しみんなに、過去こういうことをするとき、20名の議員にシンプルに簡単に賛同が得られるような目的をはっきりしたほうが、今言われたように、市民の声も聞かないといけない、議員の声も聞かないといけない。しかも、それをもって議員が何をしているか、自己採点のようなものを書かないといけないという、かなり議論が広がるので、定数と報酬に関する議論を進めるとき、議員が今考えていることを知りたいのだと。そのためにするのだと。それは会派で意見を集約するよりも、個別にやったほうが良いのではないかとだったり、会派でも意見が違う場合あるから、今回は会派で意見を集約するも、アンケートで個別に意見を集約という手法をとると。したがって協力してくれと言うのか、そこらを整理しておかないといけない気がする。委員長の判断はそうだけれど、みんながどう考えるかということを決めておかないと。

○政野太委員長　　いかがでしょうか。藤木委員。

○藤木百合子議員　　この議員一人一人のアンケートというのは、一つの議会がどうあるべきかというか、今後の改革の意味のツールではないけれど、そういう意味でのアンケートをとるとということなのです。

ね。だから、議員報酬と定数を考えるということなのだけれど、それ以前に議員活動をもっと市民に知っていただくという意味も含めてと捉えていいのですか。

○政野太委員長 私自身はそう思っております。横路副議長。

○横路政之副議長 いろんなことを言うとも幅広くなって訳が分からなくなってくるから、福山委員が言われたように、表題にあるために、これを議論するためにこのアンケートが必要なのですよということにしておかないと、議会改革ということになっていったら、それも含まれているのだけれど、大きな目的は、この議員報酬と定数のことについてのアンケートというのに絞らないといけないと思う。福山委員が言われたような तरीでいくのが正当だと思いますよ。

○政野太委員長 福山委員。

○福山権二委員 みんなの気持ちを聞いてみたいけれど、議員が定数を考えたり、報酬を考えるときに、こういうことは、当然、議員として自主的に報告しないといけないみたいなことをきちんと考えて、余り幅は広げないようにして提案するようなことを正当づけるような意思統一をしておかないと、今この場でも、議会にどれだけたくさん来ているか、来ていないかで評価するのかみたいなことになるから、議論が少し散漫。堀井委員には少し申し訳ないけれど、堀井議員が議長で私が副議長のときに、どちらがたくさん来たかといえば、私がたくさん来ているわけですよ。近いものもあるし。ものを決定するときどちらが重要な役割を果たしたかと言えば、もう歴然としているし。だから市役所へ来る回数が多いから少ないからということは、実際には市議会としての役割というのは回数ではないというのはみんな知っているの、そういうことから見て、どれだけ量をしているかとか、議員の質をどれだけしているかというのを自己申告してやれというのも、これが議員定数にどう関係するかと思う。そうすると広がるので、アンケートで定数20名でいいと思うか。ふやすか減らすか。その根拠はというぐらいいを聞くのならいいけれど、議員活動の中に踏み込んでやるとなかなか難しい。しかもそれを公表するとなると難しいのではないかな。

○政野太委員長 副議長。

○横路政之副議長 先ほど委員長が言われたように、1日の活動は何をしているか教えてくれということになると、みんながここまで言う必要があるのかと。参考にされた他の市町も相当悩んでこの項目で落ちついているのだと思う。だからこの程度ぐらいいを参考にするのが限界ではないかとは思ふ。

○政野太委員長 また中身にも入っていているところなのですが、まず福山委員から提案があったように私も思います。何の目的でというのを明確にここに記入をして、議員の皆さんの理解を得るということだと思ふのですが、やはり先ほどから意見があるように、今回は議員定数と報酬を考える特別委員会ですから、その中での議論の参考にさせていただくということが目的だということで御理解よろしいでしょうか。それ以外の目的はございません。ただ、その中の参考として、やはり改革というのが1つ中に文言があったのですが、これについてどう扱うかというのはまた次の段階で検討するというので、まずは目的については、先ほどいいましたようにし、市民の方の意見ももちろん聞く。ただいま議員の考えも聞くという意味でのアンケートを実施するというので御理解いただいでよろしいですか。堀井委員。

○堀井秀昭議員 そのことについて異議はない。内容にはまだ入っていないのだけれど、端的に言えば、設問の6。例えば、7は定数にかかわるアンケートと捉えられるけれど、6番は、今いろいろ意見が出るように、これは個人的なことで定数にかかわる質問ではないと思う。設問をもう少し整理して、

定数を考えていくのに必要な設問に絞って、アンケートをなぜ求めるかという理論につなげたほうがいいのか。例えば、6番の設問などが定数を検討するために必要な設問だと理解するのか。

○政野太委員長 整理をしないといけないと今思ったのですけれども、当初どのようにこの委員会を進めていくかと言ったときに、まずは定数を議論しようということになっておりましたので、それに絞ってアンケートをつくっていくべきか、あるいは今回、報酬も含めて、あるいは議員活動のあり方についてという内容までアンケートを実施するのcaというところを絞らなければいけないのかなと、今、感じたのですけれども、そのあたりはいかがでしょうか。今、堀井委員から言われました、確かに現時点では、報酬のことについてはまだ議論には入っておりません。協議事項にも入っておりません。今回、定数だけを対象に絞り込んでいくほうがいいという御意見だったと思うのですけれども、いかがでしょうか。國利委員。

○國利知史委員 確かにこれを見ると、定数の議論をしているのですけれど、その定数には恐らくかわらないであろう自分の動きとかという設問もあって、これはどうなのかと、正直なところ少し思いました。議員定数に関するアンケートのはずなのですけれど、議員活動に関するアンケート(案)にはなっていますけれど、こういう感じでアンケート案が上がってきているので、私も初め見たときに関係がないことまで含まれているなど正直な印象としては持ちました。

○政野太委員長 これを作成するに当たって、横山係長とこういった項目について聞いてみようかという打ち合わせをする中で、あるいは他市の議員に対するアンケートを参考にさせてもらったミックスになっているので、確かにそういう懸念もあるかと思えます。そこで、定数だけという方向でとっていくということで、もし皆さん御意見があればまたやりかえて、定数だけに絞ったアンケートをまた提案させていただくという流れになるとは思うのですけれど。議長。

○近藤久子議長 意見としては、一度にできますよ。その中で、例えば、問1の何番は外したほうがいいとか、加えるならば、こういう項目を加えたほうがいいのではないかと、そういう精査をしたアンケートにしたほうがいいと私は思います。

○政野太委員長 國利委員。

○國利知史委員 報酬も絡めてのアンケートなら多分入っていてもいいと思うのですけれど、定数だけだとどうかと思ったということです。

○政野太委員長 議長。

○近藤久子議長 議員活動に関するアンケートですから、大まかに見ていただかないと。準備をしていただいたほうも、例えば、定数だけやる。今度は報酬だけやりますよではなくて、やはりひっくるめたものだと思うのですよ。定数にも報酬がかかわってくるとは思いますし、いかがでしょうか。だからきょうは、内容について外すべきものがあれば。

○政野太委員長 いや、中の設問については、きょうここで議論を全てしていくことは難しいのかなと今思っているのですけれど、それこそ一度持ち帰っていただいて、こういった項目は削除、あるいはこういった項目を入れてはどうかという意見をまとめていってはどうかと思いますが、いかがでしょうか。それ以前に、定数だけのアンケートにするか、報酬だけのアンケートにするか、合わせるかというところなのですけれども、その辺については、議長からは両方とってもいいのではないかとということでしたけれども、皆さんよろしいでしょうか。まずはアンケートをとるということで、福山委員よろしいでしょうか。目的も先ほどから言っておりますとおりでございます。福山委員。

○福山権二委員 特に議員定数について議論を進めるのに、各議員が積極的に進めようという方向がで  
きるのがいい。始めのところなので、議長の意見もあるけれど、議員定数に関するアンケートとして、  
定数のことをまず中心にアンケートをとったほうがいいと思うのと、報酬について、意見はあっても  
議会内で余り動きがないと思うので、まず定数について、大問題なので、定数に絞った、議員活動で  
はなくて、定数に関するみんなの意見を聞いて、委員会の議論に十分に参考にしたいので協力してく  
れという言い方のほうが協力を得られると思うのです。そういうふう限定してしないと、活動とか  
報酬になると範囲が広がるから、まず一つ一つ解決したほうがいいと思う。

○政野太委員長 堀井委員。

○堀井秀昭委員 福山委員と同じ意見。まず定数問題に向けて一定の結論を求めることで、次に報酬問  
題を検討する大きな要因になるだろうと思うので、報酬の関係のアンケートを求めたら、自分の給料  
で自分がどう思っているか、単純に言えばそういうアンケートなので、そこは定数のところで一定の  
結論が見えたぐらいの時点から、その結論に基づいて報酬についての検討に入っていくほうがいいの  
ではないかと私は思う。

○政野太議員 同じ意見だっと思いますが、福山委員、堀井委員からも、まずは定数を議論するた  
めのアンケートを実施してはどうかという御意見がありました、いかがでしょう。議長からは両方  
もいいのではないかと意見もありますけれども。議長。

○近藤久子議長 議論はもちろん定数が先であろうとそれは構わないのですけれども、今回のアンケ  
ートをとることによって、そのときの議論の道筋が出てくるのではないかとと思うのです。改めてまた報  
酬だけというよりも、大体、皆さんのお気持ちはわかるのではないかと。先ほど福山委員が、報酬は  
余り話が出ていないということをおっしゃいましたけれども、私も減らせとかふやせとか、そういう  
ものを前提とした議論をお願いしているわけではないのですが、現在の報酬そのものが、皆さんのお  
手元にも全国的に見てどうなのかという数字も出ておりますが、そういうところも議論せざるを得な  
くなってくると思うので、そういう面では、1つの取っかかりがこのアンケートの中に出てくれば、  
深くこれで分かるわけではないと思うのですけれども、アンケートというのは1つの取っかかりです  
から、これによって決定するものでも何でもないと考えておりますが、皆さんの御意見に従います。

○政野太委員長 堀井委員。

○堀井秀昭議員 おっしゃられることはわからないことはないのだけれど、議員報酬に対して、受け取  
っている議員にアンケートというのは基本的に無理があると思う。算定基準にするのか。個別訪問を  
何回しているとか、活動報告会を何回しているとかいうアンケートをして、その数字を基礎に議員  
報酬を考えるたたき台にするのか。それはできないだろう。だからむしろ原価方式による算定等の数  
値をある程度引き出しながら考えていかなければ、今の議員に多いと思うか、少ないと思うかと聞く  
ということは、アンケートとしてやぼだと思う。

○政野太委員長 今回、もちろんこれを提案するに当たっては、横山係長とお話をさせてもらう中で進  
めたのですけれども、私の考えとしては、現状、これから先議論するための参考ですけれども、現在、  
議員の皆さんがどのような思いでいらっしゃるのかということをもっと知る必要があるかなという思い  
でこういう項目設定になりました。ですから、それはさまざまなこと、議員は1つの定数だけ、報酬  
だけ、活動だけではないと思いますので、総合的な1つの数値として参考にさせていただく中で、今  
後、どこに絞り込んでいけばいいのかという目的をこれは持っているとは思っております。確かに

堀井委員がおっしゃるように、自己申告などはもうほとんどあてにならないような話になってしまいますので。ただ、それでも全員からとることによって、皆さんの現状の意見を聞くことによって、ある程度見えてくるものもあるのではないかと考えております。もちろん意図的に答えをされるとそれはもうわかりませんがという思いで今回この設問の内容になっているのですが。ただ、具体的にはやはりもう少し皆さんと議論を進めていかないといけないと思いますが、現在のこの特別委員会ができる、できないとか、立ち上がる、立ち上がらないとは別で、現状の議員の皆さんの考えをお聞かせいただくのがこの内容かなとは思っているのですけれども、いかがでしょうか。局長。

○花田譲二議会事務局長 議員定数、報酬については、どの議会もいろんな形の対応をされておられます。その中で、やはり先ほどから議論になっておりますが、要は、人数とか金額だけの議論になかなかならないという結論に至っているのもほぼ事実かと思えます。その中で、議員の皆さんがいろんな活動をされているところと市民のイメージのギャップ、そういったものもきちんと市民の皆さんにお知らせする必要があるのではないかと。これは廿日市の市サンプルを入れてはいますが、そういう聞き方をされておられます。ですから自分の活動がどうなのだとすることをまずは庄原市議会の中でこういう活動だよ、こういうふうに市民に周知をしているよという形のものが、ある程度アンケートの中で集約されればそのことについて市民が御存じですかとか、そのことについてどうですかという形を聞きながら、その上で議員というのはどういう必要性があるのかとか、議会の必要性はどののだということを啓発も含めてやっていく必要もあるのではないかとこのことをよく伺うところでございます。ですから、そういった意味では、内部のアンケートでございまして、先ほど議長が言われましたが、特に分けてしなくても皆さんもう十分御存じなので、その議論はある程度、皆さんの意見を集約できるのではないかと。あと、その中で、議会活動、議員活動というものがある程度、皆さんの意識を少し出すことによって、それを今度は市民アンケートに、あくまでも市民アンケートをとるための前段の段階で、自分たちの状況そのものもきちんと把握しておこうというのもあったようでございますので、そういった中身の話になるかと思えますから、議員活動の中身であったりそういったものもある程度あってもいいのではないかとこのことが、いろいろ事務局として情報を仕入れる中では、こういう中身があっても、特に、それを個人だからどうのこうのではなくて、今後やっていく市民の皆さんの意見聴取の中で参考になっていくのではないかとこのことは、事務局では考えているところでございます。

○政野太委員長 福山委員。

○福山権二委員 大体そういう議論に入っていくのだけれど、議員定数を考えることは、議会としてもすごく大事な検討課題だと思うのだけれど、議員というのは、それぞれ立候補するにはさまざまな思いがあって、政治信条を持っている方もさまざまあって、それはもう統一したこういうものとして、議員としてあるべきだというのは議会基本条例にも書いているのだけれど、それにのっとってどうするかということは個人の議員が判断をして選挙をする。それで当選をする。だからそれに対して、それぞれ申告して、例えば、1人の福山という議員が、あなたのはいい、あなたのは悪いということではできないわけで、それぞれ議員活動がどうあるべきかというのは、こういうものだという、これに当てはまっているかどうかによって評価をするというものではないような気がするのですよ。だからそこを余り相対的にどう思っているというのは、自己採点をしたりするようになるので、特に報酬なんかは少し無理がある。

- 政野太委員長　それを言ってしまうと、もうこの委員会でみんなで共有しながら協議するということが不可能になります。やはりある程度情報を提供いただく中で、ある議員はこう考えている、またある議員はこう考えているというものを皆さんで共有をするということが1つの目的ですから、そもそもその意見を聞く必要がないという福山委員の御意見だったと思うのですけれども。福山委員。
- 福山権二委員　意見が違って、最後は議論をして決定すればいいのだから、決定をすることと議論経過は別なので。
- 政野太委員長　議論経過のために、このアンケートの実施が必要であると。福山委員。
- 福山権二委員　議論経過をするときに、議論を活性化したり、議論がスムーズにいくためには、定数ということに限定をして皆さんの意見を聞くという段取りにしたほうが議論がしやすいと、議員全員の同意が得やすいと思うのでこのように言っているだけで、そのための議論をしているのだと思っているので。
- 政野太委員長　堀井委員。
- 堀井秀昭委員　議員定数を考えていく上で、議員報酬は議員定数を考える要因にはならないと思います。議員定数を考える中で、議員報酬を要因に入れたらいけないと思う。それから議会活動をさまざまな方式によって正当な報酬を導き出していないと、議員活動を報酬の中へ加えるという考えを持つと、これは全然わからなくなる。この議員活動に対するアンケートというのは意味がない。それは一生懸命、戸別訪問をしたりされている議員もおられるだろうけれど、私など個別訪問なんか4年間のうちで恐らく1回も2回もするかしないかくらい。では、議員活動をしていないのかと言われると、それはそれで異議がある。そこら辺を整理して書いたほうがいいのではないかと思うから言っている。皆さん方の決定に従わないというわけではないのだが、最初に言いましたように、定数の検討の段階で、報酬は要因には入らないというのは思う。
- 政野太委員長　議長。
- 近藤久子議長　もちろんそうですよ。定数を少なくしたから報酬を上げましょうかという議論にはならない。その時代時代で、今は景気が悪いから報酬を下げましょうという議論にはならない。もちろんそうですよ。ただ、今回の議員活動に関するアンケートの案については、その1つの取っかかりになるのではないかと思うのです。先ほど言いましたように、江藤教授がまとめられた原価方式を今やろうと言っているわけではないので、あなたの議員活動の時間が少ないから我々も報酬を下げないといけませんという議論にはならないのですよね。この中で、例えば、問1の6番、議員報酬に魅力があった。これに誰も丸をしなかったらそれでいいわけで。報酬に関係するものはですよ。これについて報酬を下げる、上げるという議論にはならないと思う。問16が、議員報酬が32万5,000円、どう思いますか。適当、多い、少ない。問17が、議員報酬の支給額の理由をお書きください。生活してみてもしんどいということがあるかもしれませんし、それはわかりませんが、やはり本音の部分がここにちょろっと出てくるのが次の報酬について考えるのに私はいいいと思うのですけれども。問20の最後に議員活動、定数、報酬等について御意見があれば記入してくださいとありますよね。そこで皆さんの意見を言っただけならば、私は定数だけのアンケートよりも次につながると思うのですよ。これ以上もう言いません。
- 政野太議員　私も同じ思いで、今回、確かに審議は、定数、それから報酬に行こうということで都合上決めましたけれども、この委員会はあくまで議員定数及び議員報酬等調査特別委員会ですので、何

度もアンケートをとることも必要になってくるかもしれませんが、まずは現状の皆さんの考えをみんなで同じテーブルで共有をしていきたいという思いでのアンケートですので。堀井委員。

○堀井秀昭委員 問3は何のためにこういう設問にするわけですか。

○政野太委員長 私の考えもありますけれど、あくまでたたき台ですから。私自身の考えで言うと、やはり選挙、報酬、定数には関係ないかもしれませんが、これは報酬のほうに関係してくるかもしれませんが、やはり議員になるためには選挙に出なければならぬという大きなハードルがあるわけです。それを越えられないから無投票という地域も出てきている。あるいは、この後の設問にもありますけれども、比和町、総領町からいらっしゃらないというのはこの1つの要因にもあるのではないかとということにもつながると思いますので、僕は必要だと思うのですが、ただ、具体的な中身については、議論はまたにさせてもらったほうがいいのではないかと考えておりますが、いかがでしょうか。きょうは、まずはこのアンケートを、先ほど福山委員から最初に提案があったこの目的のために、まず議員にアンケートを実施する。それからもう1つ決めていただければ助かるのが、無記名式にする、あるいは公表するという、この3点について確認ができれば。中身については一旦皆さんお持ち帰りいただいて、いろいろ御意見をまた改めてお聞かせいただきたいと思います。ただ、次、またこの場で集まって議論を一から始めるというのは難しいので、一旦持ち帰っていただいた意見は事前に集約をさせていただいて次の案を出させていただくということで皆さん、いかがでしょうか。國利委員。

○國利知史委員 ということは、もうきょうこの時点では、アンケートを確実にやりますということで、決定ということで持ち帰って、この内容が提示されたのだけれどどう思いますかみたいな意見をやるということを決めた上で話をし、次に持ってきてこうしよう、ああしようという議論をしようということですね。

○政野太委員長 あともう1つ、きょう皆さんの意見、福山委員、堀井委員の意見を聞かせていただきますと、それを参考にすると、主にこの定数、報酬、それから活動の3点だと思うのですよね。この質問はこれに関与することだということも明記をしていければなどは思っております。だから、アンケートをここでわざわざ分けることはせずに、あくまで議員定数及び議員報酬調査特別委員会であるということで、それらを合わせたアンケートを実施してはどうかということを前提に進めていきたいとは思いますが、いかがでしょうか。議長。

○近藤久子議長 公表する云々は次の回ですか。

○政野太委員長 それはもうきょうでいいのではないですか。それによって設問も検討されると思います。副議長。

○横路政之副議長 公表は名前を書くか無記名にするくらいか。

○政野太委員長 それもきょう決める。私は無記名のほうが、やはりより濃い意見が出るのではないかと思いますので、無記名で公表という、この3点、アンケートを実施することと、それから無記名、公表ということについてよろしいでしょうか。堀井委員。

○堀井秀昭委員 公表というのはマスコミへ出すということか。

○政野太委員長 方法は、実はまだ僕も考えていません。横路副議長。

○横路政之副議長 一般市民のアンケートは公表しないといけないものなのですが、議員だけのものを公表するというのはいらないのではないかと。

- 政野太委員長 皆さん御存じのとおり、この委員会は既にYouTubeで流れております。そう  
 中で、このアンケートは公表しないという判断は私にはできかねます。福山委員。
- 福山権二委員 委員会の意思をきちんとすればいいのだから気にしなくても。もう1つ、このアンケ  
 ートを協力要請としてするということになるのか、それとも強制的に出せということになるのか。回  
 答もできないところは全部回答しなくていいとなると、資料そのものが難しいので、例えば、こうい  
 うのは協力しないという人が出た場合にどうするのかということになるような。例えば、会派から来  
 ているのだから、決まったら全部やらせるという責任を持って帰るのか。
- 政野太委員長 責任を持って帰ってください。松本委員。
- 松本みのり委員 アンケートの内容について、この委員会でもかなり議論があったように、持ち帰っ  
 ても皆さんいろいろな思いを持たれるので、これは聞くのか、聞かないのか、何をもう少し掘り下げ  
 て聞くのかみたいな内容については、意見をいただいて、それを次のアンケートのたたき台に変えて  
 いくのか。
- 政野太委員長 また戻りますけれども、このアンケートを実施することに関して、それから無記名  
 式にするということ、それからその内容については公表することということについて、皆さんの御異  
 議があればお申し出ください。そのあとそのアンケートに協力しないということについてはまた別の  
 議論でお願いいたします。福山委員。
- 福山権二委員 設問はまた考えるとして、回答によっては、議員になるきっかけは、例えば、私で言  
 うと、政党・政治団体から立候補依頼と言ったら、これは政党の公認かとわかる。そのようにしてい  
 たら記名していてもいいのではないかと思うけれど。
- 政野太委員長 議長。
- 近藤久子議長 無記名で公表です。
- 政野太委員長 副議長、いかがでしょうか。今の3点について。
- 横路政之副議長 議長と一緒にです。
- 政野太委員長 松本委員、いかがでしょうか。
- 松本みのり委員 無記名、公表で。
- 政野太委員長 藤木委員、いかがでしょうか。内容については、これはまたもう一度議論しましょう。
- 藤木百合子委員 無記名、公表で。
- 政野太委員長 堀井委員、いかがでしょうか。
- 堀井秀昭委員 内容が検討されるというのなら、当面皆さん方の協力を得やすい状況で始めるとすれ  
 ば、無記名は必要だということと、公表についてもさして障害はないだろうと思います。内容につい  
 てもう一言言わせてもらえば、問2とか問3とか、全くばかばかしい意味のない設問だと思う。そう  
 いうところを精査してもらわないと。内容をお願いしておきます。
- 政野太委員長 また改めて御意見聞かせていただければと。國利委員、いかがでしょうか。
- 國利知史委員 それで大丈夫です。
- 政野太委員長 桂藤副委員長、いかがでしょうか。
- 桂藤和夫副委員長 皆さんと同じでございます。
- 政野太委員長 福山委員、いかがでしょうか。内容についてはまた議論しましょう。
- 福山権二委員 私は名前を公表してもいいと思う。議員をしているのに、こういうアンケートをとる

のに無記名で出すというのは余り賛同しかねる。責任を持ってしていると思っているのだから、こうやっていますとどんどん書けばいいと思います。

- 政野太委員長　　そういう意見もございますけれども、皆さん、無記名、公表とアンケート実施ということで御理解をいただけたということで、よろしく願いいたします。アンケートについては、もう一度、また皆さん方に相談させていただきませんが、先ほどありましたように、一度この内容をたたき台としてお持ち帰りいただき、次の会議までに、また改めて日程はお願いしたいと思いますが、その意見を事前に集約させていただいて、また提案させていただきたいと思いますので、よろしく願いします。

---

## 2 今後の審査について

- 政野太委員長　　それでは、協議事項2に移りますけれども、今後の審査についてということですが、またきょうの協議によって、こういったアンケートのことに審査をしていきたいと思っておりますけれども、きょう参考資料として、他自治体、三次市議会、あるいは廿日市市議会が、市民の方へアンケートを出した資料を添付させていただいております。市民アンケートについても、また近いうちに皆さん方に協議をいただかないといけないということで、こういった内容について市民の方にアンケートをとられているということで、まず目を通していただいて、市民アンケートの会議はまた別に設けたいと思いますが、そういった審査、協議をしていきたいと思っております。これまで配らせていただいた資料に目を通していただいているかと思うのですが、具体的に、例えば、もっと詳しく他自治体と比較をしていくということをしたほうがいいのかどうかという点についてももう一度皆さんに意見を聞かせていただきたいと思います。非常に難しいです。もう全くやはり違いますから。ただ、でも1つ参考にはしていかないといけないかなということで資料を配らせてもらっておりますので、その辺について御意見をお聞かせいただければと思います。アンケートについては、またこれに目を通していただいて、アンケートを提案させていただきます。いかがでしょう。今後の審査は、この定数に関して、他自治体とのもっと詳細な比較をしていくという方法をとっていくか。堀井委員。

- 堀井秀昭委員　　安芸高田市だけでなく、さまざまなことで、基本は最初から言っているように、財政規模を含めた同規模程度の自治体はどう考えているかというのを考える上での基本にしないとけないと思うのです。でないと、正解がないところへ正解を出そうと思うので難しくなる。だけれど、この資料2を配ってくれているよね。これは誰がまとめられたのか知らないが、素晴らしいまとめだと思う。こういった考え方を前に出していかないと話はまとまらないのではないかなと思う。

- 政野太委員長　　今、堀井委員から他自治体との比較を徹底的にもう少し深く掘り下げてみようという御意見だったかと思っております。その自治体をピックアップしていただきたいということで、以前の資料にこういった、私と事務局で選んだ自治体ですけれども、資料も添付しておりますので、ただ、全てにおいてやるわけにはなかなかいかないと思いますので、それについてここというところをきょう決めていただければまた準備をしていきたいと思っておりますが、いかがでしょう。

〔「委員長一任」と呼ぶ者あり〕

- 政野太委員長　　委員長一任という御意見もいただいておりますが。國利委員。

- 國利知史委員 財政規模などを参考にとっておられますが、面積も同じようなところも含まれるのですか。
- 政野太委員長 面積もできるだけ似たところを選んでいっているつもりなのですが、やはりどうしても倍半分のところもありますが、半分ぐらいの面積のところについては、その他の状況が余りにも似通っているということでここに抽出しております。國利委員。
- 國利知史委員 庄原はすごく広いじゃないですか。なので、財政規模は違うかもしれないですけど、面積が同じような自治体でどれぐらいかというのも自分的には知りたい。
- 政野太委員長 これにピックアップさせていただいた 15 団体ぐらいの中に、人口と面積という数字をピックアップしたものがこれなのです。局長。
- 花田譲二議会議務局長 面積で言いますと、次に広いのが北秋田市、人口 3 万人程度で、面積は 1,152 平方キロメートル。その次はもう 3 桁になります、900 平方キロメートル台。だから面積で比較していくと、財政規模はなかなかしんどいのでということではありますけれど、その中で、北秋田市あたりは少し似通っている。面積的にも、議員定数も 20 人。今、20 人が 18 人になっていますからあれですけど、もともと 20 人だったという報告は受けていますので、この中で、かなりそういった意味では網羅しながら、先ほど委員長が言われました面積の半分ぐらいまで、とりあえず財政規模が同じところはピックアップさせてもらっているという状況です。
- 政野太委員長 松本委員。
- 松本みのり委員 平成の大合併の以前にどのぐらいの市町があって、そこが合併されたのかということも大きいのではないかと思いますのですけれど。庄原市の場合は 1 市 6 町で合併して。
- 政野太委員長 局長。
- 花田譲二議会議務局長 実はその各県によって全く違うものですから、合併を推進した自治体と都道府県がありますので、たまたま今の財政規模が一緒のところを調べるということは可能です。だから先にそれをやって、それをもとにして調べるのは、事務局としてはこらえていただきたい。逆に言えば、もともとどれぐらいの市町で構成されていたかというのは、当然そこまでまず絞った上で、の合併以前での話をさせていただく必要のほうが、事務局としては業務が楽と言えば大変申し訳ないのですけれど、それをやってしまうともう 20 年前の話をしなければなりません。
- 政野太委員長 比較団体が決まったら、そういった内容もまた盛り込んでいければと。一任とはいただいておりますが、何か御意見があればお伺いしておきますが、よろしいですか。ここというところがあればですけど、なければよろしいです。もちろん三次市は外さないようにしようと思いますが、よろしいですね。直近の新見市と三次市、安芸高田市は、もう広島県域という形になっているのでどうかと僕は思っているのですけれど、よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

- 政野太委員長 先ほどありました秋田県の北秋田市、あるいは仙北市、こういったところになるのではないかと思います。このあたりももう少し深掘りをしていくということで、その資料をまた準備させていただきたいと思います。

---

### 3 その他

○政野太委員長　　その他ですけれども、事務局からお願いします。

○花田譲二議会議務局長　　前回、前々回もそうですが、市民と語る会である程度特別委員会の報告をしていくべきということで、基本的には各市民と語る会の最後に状況報告をしましょうということにしております。その資料を資料2という形で添付しております。先ほど堀井委員から言われましたけれども、この内容で現在こういうふうに進んでいますよと。今後、市民の意見を聞きながら進めていきますので、また御意見をいただきたいと思っておりますという形の報告を一応していただきたいと思っております。それぞれ各班に皆さん委員として出ておられますので、1班でいいますと、藤木委員、國利委員、松本委員、2班が政野委員長、3班が福山委員、堀井委員、近藤議長、4班が桂藤副委員長、横路副議長ということで、できるだけこの特別委員会の委員の皆さんで報告をいただければありがたいと思っております。これがすごく議論になるかどうかというのはあるのですが、できれば会議の終わりにこういう状況を伺っておりますということで、今後、皆さんの意見を聞いていきますという予告なり、皆さんに御周知いただくという程度かと思っておりますので、そのための手持ち資料ということで今回見ていただきたいと思っております。以上です。

○政野太委員長　　堀井委員。

○堀井秀昭委員　　参加される市民の方への配布資料ではないですね。

○政野太委員長　　局長。

○花田譲二議会議務局長　　今のところはそうように考えております。これがひとり歩きするのもあれなので、まだ市民意見は聞いておりません。新聞報道やいろんな形では出しておりますので、現在こういう審議を始めているところだという言い方をさせていただければよろしいかと思います。あくまでも予告ということで。本格的な市民アンケートは、当然、この先になりますので、そういった意味合いでの予告をさせていただければいいかと事務局では考えております。

○政野太委員長　　ですから、恐らくこれを報告すると、地域によっては白熱することもあるのではないかと想定を僕はしております。ただ、今後、市民アンケートを皆さんにとらせていただくのだということをしっかりとお伝えいただいて、その場で意見を、市民と語る会ですからこれは何を語ってもいいわけなので、とめることも何もできないとは思いますが、そのあたりを皆さん、今後の市民アンケート、あるいは議員のアンケートをとろうとしていると。今、比較をしようとしているということをいろいろ説明していただければと思いますので、よろしくお願いします。その他、ございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○政野太委員長　　それでは、次回予定は未定です。また改めて御案内をさせていただきたいと思っております。以上をもちまして、第5回議員定数及び議員報酬調査特別委員会を散会いたします。お疲れさまでした。

午前11時6分　　散　　会

庄原市議会委員会条例第 30 条の規定により、ここに署名する。

議員定数及び議員報酬調査特別委員会

委員長